

ことば 言葉	かんたん せつめい 簡単な説明 (言葉にはいくつかの意味がありますが、この説明では、小中学生のみなさんがミニブックを読 むのに必要な意味を説明してあります。)
せかい いさん 世界遺産	ユネスコが決めた世界の宝。自然に関する自然遺産、文化に関する文化遺産、自然と文化の両方に 関する複合遺産がある。世界遺産になったものが、その価値がなくなりそうなどき危機遺産と呼 ぶ。
しんこう 信仰	かみさまほとけさま しん いの ところ 神様仏様などを信じてお祈りすること。心のよりどころとすること。
たいしょう 対象	はたらきかけるもの、られるもの。めあて。
信仰の対象	信仰されるもの。お祈りされるもの。
げいじゆつ 芸術	うつく お もと ひょうげん にんげん かつどう う さくひん 美しさを追い求めたり、表現したりする人間の活動。その活動によって生まれた作品。
げんせん 源泉	もと。みなもと。ものが生まれるところ。
芸術の源泉	芸術活動や作品の元となるもの。 世界遺産富士山の場合は、富士山が昔から多くの芸術作品のテーマ、題材になっていること。
ぶんかざい 文化財	にんげん たと しんこう びじゆつ けんちく えんげき おんがく さいれい ちょ 人間の文化的活動によって生み出されたもの。例えば、信仰、美術、建築、演劇、音楽、祭礼、彫 刻、庭園など。市町村、都道府県、国が指定をする(決める)。
ふもと 麓	山の下のほう。山のすそ。
こらい 古来	ずっと昔から。
さんがくしんこう 山岳信仰	とくてい やま れいざん かんが やど そんけい たい 特定の山(霊山)を神様、仏様と考える。また、霊山は神様や仏様の宿る場所と考え、尊敬したり、大 切に思い、山の中で儀式や修行を行うこと。日本に昔からある信仰のかたち。
みっきょう 密教	ちゅうごく つた ひろ ぶっきょう かんが かた みっきょう だいにちによらい こん 中国から伝わり、日本に広まった仏教の考え方のひとつ。密教では大日如来をすべての生き物の根 本と考えている。
しゆげんどう 修験道	山での修行を通して、自然の中から叡智(すぐれた知恵・真理)を感じ取る力を養うこと。
しゆげんしゃ 修験者	修験道の行者。
いっばんしよみん 一般庶民	いま いっばんしよみん 今でいう「一般市民」のこと。
とはい 登拝	山の途中に祀られている決められた神様、仏様をお祈りしながら登山すること。 山にすむ神仏の所へ行き拝むこと、富士山の場合は、富士山の山中や山頂にある神仏を祀る所に行 き拝むこと。
はせがわ かくぎょう 長谷川 角行	富士山の神を信仰する「富士講」を始めたとされる人。北口本宮富士浅間神社 本殿の西側の奥にある 「祖霊社」に祀られている。
きょうぎ 教義	宗教の教えの内容。宗教や宗派によってそれぞれ内容が違う。
でし 弟子	先生から教えを受ける人。師匠について修行する人。
ふじこう 富士講	富士山の神様、仏様を信仰している宗教のひとつ。江戸を中心に組織化され沢山のグループがで きた。

れいち 霊地	神様や仏様のいるところ。富士山信仰の場合、御中道、内八海、外八海などがある。
うちほっかい 内八海	やまなかこ あすみこ いけ せんづ こ せんずい かわぐちこ さいこ しょうじこ もとすこ しびれこ 山中湖、明見湖(はず池)、泉津湖(泉水)、河口湖、西湖、精進湖、本栖湖、四尾連湖
そとほっかい 外八海	ちくぶしま びわこ ふたみがうら ほこねこ あしこ すわこ ちゅうぜんじこ はるなこ さくら いけ かすみがうら 竹生島(琵琶湖)、二見浦、箱根湖(芦ノ湖)、諏訪湖、中禅寺湖、榛名湖、桜ヶ池、霞ヶ浦
おちゅうどう 御中道	ごごうめ ふきん いっしゅう じゅんれいる ちゅうどう しゅぎょう ひじょう けわ みち 富士山五合目から六合目付近を一周する巡礼路(中道)で修行をすること。この中道は非常に険しい道 で、誰でも修行できる場所ではなく、許された者だけが通れた。現在では、大沢崩で途切れている。
じゅんばい 巡拝	かくち しゃじ まわ れいはい 各地の社寺を回って礼拝すること。ある社寺の中を回って礼拝すること。
じゅんれい 巡礼	しんこう ぼしよ めぐ こゆう せいち れいじょう じゅんばい じゅんばい ひと 信仰のために色々な場所を巡ること。ある宗教固有の聖地・霊場を巡拝すること。巡拝する人。 うちほっかいめぐ そとほっかいめぐ おちゅうどうめぐ はちめぐ 富士山の場合、内八海巡り、外八海巡り、御中道巡り、お鉢巡りなどがある。
さんけい 参詣	神社やお寺におまいりすること。
はち お鉢	ふ じさんちよう かこう いただき しんぶつ まつ 富士山頂の火口のこと。火口の周りには8つの頂があり、それぞれの頂に神仏が祀られている。そ のハカ所は蓮の花の八葉に関連付けている。そのハカ所を巡ることを「お八葉」と呼び、そこから げんざい はちめぐ せつ 現在の「お鉢巡り」になったという説もある。
かいきん 解禁	いま きんし ゆる 今まで禁止されていたことが許されるようになること。
だいがい 題材	げいじゅさくひん しゅだい あらわ つか ざいりょう 芸樹作品などの主題を表すために使われる材料。
ぶんがく 文学	言葉による作品。読み物。富士山の場合、富士山に関すること(魅力や特徴など)を表現した詩や しょうせつ 小説など。
さいこ 最古	いちばんふる 一番古いこと。
まんようしゅう 万葉集	なら じだい かしゅう 奈良時代の歌集。和歌は日本固有の形式による詩。長歌、短歌など。特に短歌(5.7.5.7.7)の31音 を基準とする。)のこと。
よ 詠んだ	わ か ほうく つく 和歌や俳句などを作ること。
ふくすう 複数	いじょう 2つ以上のこと。
しず 鎮める	よ なか くに お つ じょうたい しんどう れい かみさま ぼ 世の中や国を落ち着いた状態にすること。神道では、霊をとどまらせる。神様にその場にいてもら うこと。
たけとりものがたり 竹取物語	ひめ はなし かぐや姫のお話
こきん わかしゅう 古今和歌集	へいあんじだい てんのう めいれい つく わかしゅう 平安時代に、天皇の命令で作った和歌集。
いせものがたり 伊勢物語	おとこ ゆうめい にほん うたものがたり おとこ れんあいものがたり 平安時代に作られた「むかし男ありけり」で有名な日本の歌物語。ある男の恋愛物語。
こてん さくひん 古典作品	ふる 古い時代に作られた作品。作品は、人の心の動きをかたちにしたもの。
まつお ばしゅう 松尾芭蕉	え ど じだい ぜんき はいじん おく ほそみち ふるいけ かわずと みず おと しず 江戸時代前期の俳人(俳句をつくる人)。「奥の細道」や「古池や 蛙飛びこむ水の音」「閑かさや いわ にしみ入る 蟬の声」が有名、富士山を題材とした俳句は「富士の山 蚤が茶臼の覆いかな」などが ある。
よき ぶそん 与謝蕪村	え ど じだい はいじん はる うみ ゆうめい ふじさん だいがい はいく ふ じ 江戸時代の俳人「春の海 ひねもすのたり のたりかな」が有名。富士山を題材にした俳句は「不二ひ とつ うづみ残して わかばかな」などがある。

はいく 俳句	きせつ あらわ ことば きご い 5.7.5の17音から成る短い詩。季節を表す言葉（季語）を入れる。
なつめ そうせき 夏目漱石	めいじじだい たくさん しょうせつ か さっか ぼ わがはい ねこ 江戸時代の終わりに生まれ、明治時代に沢山の小説を書いた作家。「坊っちゃん」「吾輩は猫である」などを書いた人。「三四郎」をはじめ多くの作品に富士山に関わる文章が書かれている。
だざい おさむ 太宰 治	めいじ しょうせつか はし にんげんしっかく か さっか なつば みさか てんかじや じょうやど 明治生まれの小説家。「走れメロス」「人間失格」を書いた作家。夏場、御坂の天下茶屋を定宿としていた井伏鱒二と一緒に滞在した。富士山や富士北麓地域に関係する「富岳百景」（「富士には月見草がよく似合う」が含まれている）などの作品がある。
うきよえ 浮世絵	ほん さしえ えじたい にんぎ えどじだい もくほんが しょみん ひろ めいじ 本の挿絵からはじまり、絵自体が人気となり江戸時代に木版画にすることで庶民に広がった。明治時代までに日本で作られた木版画をさすことが多い。歌舞伎役者、女性、風景を描いた作品が多い。
かつしかほくさい 葛飾北斎	えどじだい うきよえ し せかい し にほんじん だいひょきくひん ふがくさんじゅうろっけい ほくさいまん 江戸時代の浮世絵師。世界でもよく知られている日本人。代表作品は「富嶽三十六景」「北斎漫画」であるが、晩年に制作した「富嶽三十六景」は、富士山に関わる作品でもあり、日本を代表する作品である。
ふがく さんじゅうろっけい 富嶽三十六景	かつしかほくさい さくひん かくち み ふじさん ふうけい えが けい じっさい まい え 葛飾北斎の作品。各地から見られる富士山の風景を描いたもの。36景であるが実際には46枚の絵からなる。「神奈川沖浪裏」（2024年発行予定の新千円券の図柄になる）「赤富士」などがある。
うたがわひろしげ 歌川広重	えどじだい うきよえ し どうかいどうごじゅうさんつぎ ゆうめい 江戸時代の浮世絵師。「東海道五十三次」が有名。
とうかいどうごじゅうさんつぎ 東海道五十三次	うきよえ れんさく どうかいどう たび さくせい かんたん たび でき とうじ ひとびと きちよう ごら 浮世絵の連作。東海道を旅して作成した。簡単には旅が出来なかった当時の人々にとって貴重な娯楽だった。
いんしょうは 印象派	せいようかいが しゆるい せいきこうはん お げいじゆつんどう とくちょう おくない 西洋絵画のジャンル（種類）。19世紀後半にパリに起こった芸術運動。特徴は、それまで屋内のアトリエで描くことが常識だった伝統を破り、屋外に出て目の前の風景などを描いたところ。
がが 画家	え か せんもん しょくぎょう ひと 絵を描くことを専門（職業）にしている人。
えいきょう 影響	ほか ものごと ちから およ へんか ほんのう 他の物事に力を及ぼして、変化や反応をさせること。
にほんが 日本画	にほん むかし か かた もうひつが 日本に昔からある描き方をした毛筆画。
1 価値	ね う もの もくてきたっせい やくだ せいしつ ていど 値打ち。物がもっている、ある目的達成に役立つ性質や程度。
じゅうよう 重要	ひじょう たいせつ もの こんぼん 非常に大切なこと。物の根本にかかわっていること。
ちいき 地域	くぎ はんい とち じぶん かんが ぼしょ 区切られたある範囲の土地。自分たちが考えているある場所。
ひょうこう 標高	かいめん たか かいばつ 海面からの高さ。海拔。
はんい 範囲	かぎ ひろ うち ある限られた広さの内。
しんせい 神聖	けが とうと きよ おか 穢れがなく尊いこと。清らかで冒しがたいこと。
きょうかい 境界	いろいろ わ さかいめ ふじさん われわれにんげん せかい しんぶつ せかい さかい あらわ とき つか 色々なことを分ける境目。富士山では、我々人間の世界と神仏の世界の境を表す時に使われる。
うまがえし 馬返	ぼしょ なまえ さか きゆう うま かえ こまがえ い ふじさん しんせい 場所の名前。そこから坂が急になるので馬を返したところ。「駒返し」とも言う。富士山の神聖と俗界との境界と考えられている。
ぞっかい 俗界	ふつう ひと す ぼしょ 普通の人が住んでいる場所。
あ 挙げる	しりょう ばあい れい しめ この資料の場合は「例として示される」

1 - 1	じいん 寺院	てら 寺
	つく 造る	た 建てる。
	ほうのう 奉納	しんぶつ しなもの そな げいのう きょうぎ おこな え ま ほうのう かぐら ほうのう たいこ 神仏に品物を供えたり、芸能・競技などを行ったりすること。「絵馬を奉納」「神楽を奉納」「太鼓 (演奏)を奉納」など
	ごらいこう 御来光	こうざん さんちやう み そうごん ひ で ほとけ ごこう ごらいごう ①高山の山頂で見る荘厳な日の出。②仏の後光（御来迎）。
	ごらいごう 御来迎	ほん ごらいこう ぼあい せつめい い み ぼあい ごらいごう い 本センターでは、「御来光」というと①の場合で説明し、②の意味の場合は「御来迎」と言う。
	ごらいごう 御来迎	じぶんじしん あさひ かげ きり うつ かげ ひかり ほとけさま すがた み げんしょう 自分自身に朝日があたり、その影が霧に映ったときに、その影と光が仏様の姿に見える現象。ブ ロッケン現象と言われている。
	おが 拝む	て あ かんしゃ き も おも しんぶつ いの 手を合わせて、感謝の気持ちを思うこと。神仏にお祈りすること。
	はちめぐ お鉢巡り	ふじさん さんちやこう まつ ほとけさま おが とけいまわ まわ 富士山の山頂火口に祀られている仏様を拝んでまわること。時計回りに回る。富士山頂の形が鉢の ような形をしているので、「お鉢巡り」と呼ばれている。八カ所の頂を巡ることから、古くは八つ の花びらのある蓮の花をイメージして「御八葉」といった。
1 - 2	おおとりい 大鳥居	ほんらいとりい じんじゃ いりぐち た もん しんせい りやういき さかい しめ おおとりい 本来鳥居は、神社の入口に立てる門。神聖な領域との境を示すもの。しかし、この「大鳥居」は、 きたぐちほんぐう ふ じ せんげんじんじゃ い ぐち とざん しゅっぱつてん 北口本宮富士浅間神社 の入り口にあつて、登山の出発点となる。
	きてん 起点	はじ 始まりのところ。
	とざんどう 登山道	やま のぼ みち 山に登る道。
	おまいり	かみさま ほとけさま いの 神様や仏様にお祈りすること。
	しゆくぼう 宿坊	じしゃ まい き ひと と 寺社にお参りするために来た人が泊まる場所。
1 - 3	ようはい 遙拝	とほ ぼしよ かみさま ほとけさま おが 遠い場所から、神様、仏様を拝むこと。
	ようはいじよ 遙拝所	ようはい 遙拝をするところ。
	むらかみこうせい 村上光清	ふじこう だいいめ しどうしゃ かねも ゆうめい せんげんじんじゃ どうろう ほうのう 「富士講」の6代目の指導者。お金持ちで有名。浅間神社に灯籠を奉納した。
	きしん 寄進	てら じんじゃ かね もの き ふ 寺や神社にお金や物を寄付をすること。
	けんぞうぶづん 建造物群	たてももの あつ いくつもの建物の集まり。
	しゅうふざうじ 修復工事	こわ なお 壊れたところを直すこと。
1 - 4	おし 御師	ふじさん しんこう ひとたち ふじさんしんこう おし ひと ひとたち せ わ ひと ご(お)きどうし 富士山を信仰する人達に、富士山信仰について教える人。またその人達の世話をする人。御祈祷師 りやく ことば を略した言葉。
	おし じゅうたく 御師住宅	ふじさん しんこう ひとたち と ふもと いえ やど ふじさん のぼ てじゅん おし せ わ 富士山を信仰する人達を泊めた麓の家（宿）のこと。富士山に登るための手順を教えたり、世話を したりする宿。
1 - 5	ほんでん 本殿	じんじゃ なか しゅ まつ かみさま ぼしよ 神社の中で、主に祀ってある神様のいる場所。
9, 10	きゅうとがわけじゅうたく 旧外川家住宅	むかし おし いえずみせ かいいさん ふじさん こうせいしさん ひと いっぱんこうかい 昔、御師をしていた家。世界遺産富士山の構成資産の一つとなっている。一般公開されている。
	おさの け じゅうたく 小佐野家住宅	むかし おし いえずみせ かいいさん ふじさん こうせいしさん ひと げんざい ひと す 昔、御師をしていた家。世界遺産富士山の構成資産の一つとなっている。現在も人が住んでいるの で、一般公開はされていないが、復元された建物が、「ふじさんミュージアム」敷地内にあり見学 できる。

	むか 迎え	く ひと よ き う い 来る人を「良く来たね。」と受け入れること。
13 ^ 20	わ みず 湧き水	ち か とお みず ちじょう わ で みず 地下を通っている水が地上に湧き出てきた水のこと。
	ふじ はっかいしゅぎょう 富士八海修行	うちはっかい めぐ しゅぎょう 内八海を巡り修行をすること。
	さんこう 参考	た にん おこな かんが もと じぶん かんが こうどう き 他人の行ったことや考えを元に、自分の考えや行動を決めること。
	ふじさん もとほっこ 富士山元八湖	おしのむら でぐちいけ かまいけ そこぬいけ ちょうしいけ わくいけ にごりいけ かがみいけ しょうふいけ いけ 忍野村にある出口池、お釜池、底抜池、銚子池、涌池、濁池、鏡池、菖蒲池の8つの池をまとめて おしのほっかい よ おしのほっかい 忍野八海と呼ぶが、その忍野八海のことを富士山の信仰に関わる人達の呼び方。
	すいぎょう 水行	みず つか しゅぎょう みず なか あたま み きよ みずごり たき う たきぎょう 水を使った修行。水の中に頭までつかり身を清めること（水垢離）や滝に打たれること（滝行）などがある。
21, 22	ふじ ほくろく 富士北麓	ふじさん きたがわ ひろ い み ふじごこしゅうへん すその い 富士山の北側のすその。広い意味で富士五湖周辺の裾野を言うこともある。
	ようがんじゅけい 溶岩樹型	ようがん なが き き も こうどう あな 溶岩が流れてきたときに、木をとりかこみ、木が燃えてなくなりできた空洞や穴のこと。
	あさまのおおかみ 浅間大神	え どじだい しん ふじさん かみさま 江戸時代に信じられていた富士山の神様。
	たいない 胎内	ようがんじゅけい なか ふじさんしんこう むす しんぶつ まつ ぼしよ ないぶ ひと からだ み 溶岩樹型の中で、富士山信仰と結びつけて神仏を祀った場所。内部が人の体のように見えるのでそのように呼んでいる。
	このはなさくやひめのみこと 木花咲耶姫命	ふじさん かみさま え どじだい げんざい しんこう ふじさん かみさま ひ なか こ 富士山の神様のひとり。江戸時代から現在にかけて信仰されている富士山の神様。火の中で子どもを産んだとされる神様。
富士五湖	けいしょうち 景勝地	けしき うつく 景色がとても美しいところ。
	さか ふじ 逆さ富士	ふじさん みずうみうつ さか み すいめん さか うつ ふじさん 富士山が湖に映って逆さに見えること。水面に逆さに映った富士山。
	ぜっけい 絶景	うつく けしき 美しい景色。
	しへい 紙幣	かみ かね 紙のお金。
	ずから 図柄	もよう 模様。